

4. 本文に登場する主な絵画

(1) 高砂の媼ババと蘆雪の山姥 (P15)



▲高砂の媼



▲長沢蘆雪の山姥

『高砂』は、能の作品の一つ。相生の松によせて夫婦愛と長寿を愛で、人世を言祝ぐ大変めでたい能。

長沢蘆雪は円山応挙の高弟師とは対照的に、大胆な構図、斬新なクローズアップを用い、奇抜で機知に富んだ画風を展開した「奇想の絵師」の一人。

(2) ミレーのオフィーリア (P19)

サー・ジョン・エヴァレット・ミレー(1829年ー1896年)は、イギリスのラファエル前派の画家。

「オフィーリア」はヴィクトリア朝の最高傑作と名高い作品で、シェイクスピアの『ハムレット』の清純可憐なヒロインを題材にしたもの。



▲オフィーリア

ジャクチュウ
(3) 若冲の鶴図屏風 (P24)

伊藤若冲(1716年-1800年)は江戸時代中期の京にて活躍した絵師。写実と想像を巧みに融合させた「奇想の画家」として曾我蕭白、長沢芦雪と並び称せられる。

若冲という人物は絵を描くこと以外、世間の雑事には全く興味を示さなかった。生前の若冲は、『平安人物志』の上位に掲載されるほどの人気と知名度を持っていた。

近年、アメリカ人収集家ジョー・プライスのコレクションにより飛躍的にその知名度と人気を高めている。

▼鶴図屏風



(4) ターナーの汽車 (P28)



ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー
(1775年-1851年)は18世紀末から
19世紀のイギリスのロマン主義画家。
ロイヤル・アカデミー附属美術学校に入
学後、27歳の若さで同・正会員となっ
ている。

▲雨、蒸気、スピード・グレート・ウェスタン鉄道(1844)

(5) 応挙の幽霊 (P28)

円山 応挙(1733年－1795年)は、近現代の京都画壇にまでその系統が続く「円山派」の祖であり、写生の技術を基礎としつつも、日本絵画の伝統的な画題を扱い、装飾性豊かな画面を創造している。

「足のない幽霊」を描き始めた画家とも言われている。



(6) 文与可の竹、雲谷派の山水、大雅堂の景色

蕪村の人物 (P66)

◆ 文与可(1018～1079年) 北宋四川梓州の人

宋時代の著名な画家、詩人。自号笑笑先生。

◆ 雲谷派 雲谷等顔(1547～1618年)が始祖

雲谷派は等顔が築いた雪舟様の画法を墨守したため、形骸化・保守化が著しい側面があるが、その守旧さゆえに桃山風の華麗な装飾性が後々まで残った。



▲文与可の竹

▲山水図屏風 等顔作 ⇒

重要文化財

東京国立博物館蔵



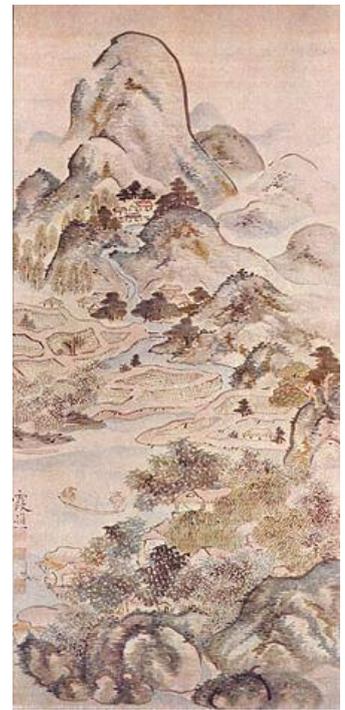
◆ 大雅堂＝池大雅(1723～1776年)

江戸時代の文人画家、書家。中国の故事や名所を題材とした大画面の屏風、日本の風景を軽妙洒脱な筆致で描いた。

中国渡来の画譜類のみならず、室町絵画や琳派、更には西洋画の表現を取り入れ、独自の画風を確立した。

◆ 蕪村＝与謝蕪村(1716-1784)

松尾芭蕉、小林一茶と並び称される江戸俳諧の巨匠の一人であり、江戸俳諧中興の祖といわれる。また、俳画の創始者でもある。写実的で絵画的な発句を得意とした。



▲Fishing in Springtime

クリーブランド美術館蔵



▲蕪村筆「奥の細道画卷・那須野」

(7) 端溪の^{クヨクガン}鵝鶩眼 (P87)

端溪は中国広東省広州の西 100km にある肇慶市南東を流れる西河に注ぐ谷川をいう。

ここで産出する硯石は良質で、中国の良硯の四宝の一つに数えられている。

中でも硯にある丸い斑紋を^{クヨクガン}鵝鶩眼といい、珍重される。



(1)～(7) 参考/ウィキペディア等